

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ江戸川橋保育園
施設所在地	東京都文京区水道2-10-3

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然
～お米を育ててみよう～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
週に2、3回は朝、栄養士が給食のその日の食材を子どもたちに見せてくれる機会があり、野菜に関しては知識・関心が育っている子どもたち。日常的に食べているお米はどのように作られ、自分たちの食卓にとどくのかを体験しながら知ることに挑戦した。

2. 活動スケジュール

6月～田植え(バケツ)
9月～虫や花の観察
11月 稲刈り
12月 脱穀と実食
1月 球根を発見、球根についての考察
2月～球根(ちゅうりっぷ)植え
毎日水やり活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
保育園の2階テラスを利用して、バケツで育てる稲を購入。
土・バケツ・たらい・ホースリール・日よけのシート・ビニールシート・虫眼鏡・軍手
模造紙(活動記録)・球根・強い日差しよけテント・鋳物おもり・プランター・じょうろ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

稲を購入し、観察するところから開始。土づくり・田植え・育成・水やり・刈り取り・干す作業・脱穀・実食と、保育園生活とともに6月から12月まで継続してお米作りの活動が続いていった。長期にわたり、稲の成長を見守り、変化を実体験することができた。

1月から球根を発見し、球根について調べる。ちゅうりっぷはどんな花？第一回の実践

「ちゅうりっぷ」の花について知っていることを共有しあう。

制作をとおしてちゅうりっぷの色や形を考察し、自由に作成する。

球根に実際に触れてみる・感じたことを言葉で表現し、子ども同士で認め合ったり意見を出し合ったりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

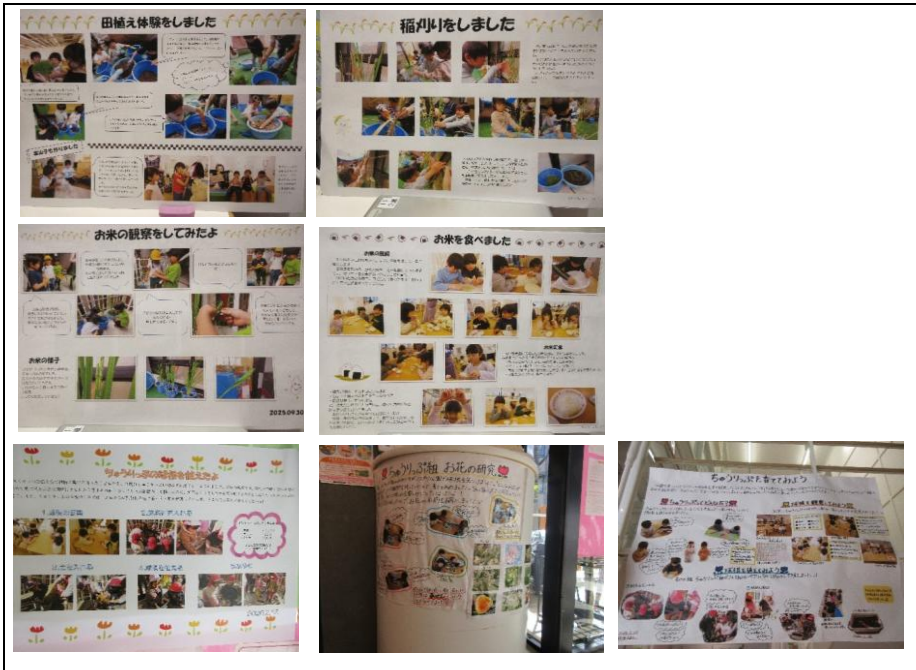
(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

貴重な自然体験となった。田んぼや畑の土に触れることなど、ほとんどない子どもたちが、新しい体験を繰り返しながら、課題に取り組んだ。初めの土づくりの時に、土の感触やにおいを嫌がって途中で投げ出した子が、育てていくうちに愛着を持ち、すすんで世話をする様子に変わっていった。猛暑の時期や雨続きのころなど、皆で期待と不安を共有しながら見守っていった。保育士の予想を超えて、虫や植物への関心が広がり、遠足には「植物園」を選び、探求心いっぱいの散策ができた。

ちゅうりっぷの葉や莖に関して考察しあう時間では、様々な色や形を積極的に発言する。

互いが認め合ったり、意見を出し合ったりする。保育者は子どもたちの発言を絵や図で紙面に起こし、さらなる探求心と繋がるようにした。

球根の観察では、2人1組になり、「だいこんの匂いがする」など感じたことを保育者に共有する姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お米を育てる活動は、子どもたちと自然との関係を近づけるものとなった。風や雨、強い日差気温の変化などが稲の育ちに影響することを、実感することができた。また、個々の子どもによって何に注目し、どこに気づくのかは異なり、個性の再発見にもつながった。子ども同士が自分の発見を伝え合ったり、教えあったりする中で、伝え合うことの楽しさを十分に味わう姿があった。年長児は特に、それぞれの友だちの感じ方の違いとその良さを認識していく様子がよくわかり、たくさんの学びをもたらす活動となった。観察で気づいた事実だけでなく、今後の予想や他の植物との関連についても言葉で伝えようとする気持ちが育っており、今後も継続して子どもたちの興味に向く方向に寄り添っていきたい。

子どもたちは固定概念がなく、考えたことや感じたことを自由に表現していた。また、友だちとペアになることで、互いが認め合ったり提案したりと、さらなる探求心が持っていたように感じた。毎日の水やりを通して、成長を楽しみにしており、保護者との会話も弾む姿が見られたり、他クラスの子どもも観察したりして、保育園全体がちゅうりっぷの成長を楽しみにしていることが分かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ江戸川橋保育園
施設所在地	東京都文京区水道2-10-3

1. 活動のテーマ

<テーマ>

数字・図形

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

生活や遊びのなかで様々な形が身近にあることに気づく。そこから保育者や友だち同士で発見した図形を共有する姿が見られるようになったので、さらに興味を持ちイメージを広げたり遊びの中で作り上げたりする楽しさを味わえるようにテーマとして取り上げた。

2. 活動スケジュール

- 4月 数字の歌遊び
- 5月 数字・数について知る
- 6月 形・絵のカードを使い数字との同じ組み合わせを作る
- 7月 お買い物ゲーム
- 8月 丸・三角・四角カードを用いて園内の図形探しゲームを行う
- 10月 異年齢児合同で様々な形の物を集めてみよう
- 11月 丸・三角・四角の図形を使って様々な形を作ってみよう
- 12月 運動会の競技で丸・三角・四角の理解を深めよう
- 1月 様々な形のマグネットで物や形を作ってみよう
- 2月 積み木やブロックを使って形を作ろう
- 3月 好きな画用紙を選んで、隠されたカードを探して見つけたカードに書いてある形を作成する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・丸、三角、四角のカード ・丸、三角、四角の折り紙 ・マグネット玩具
- ・図形遊びで使用するためホワイトボードを購入
- ・模造紙(パーティションに貼って自由に図形を描く)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

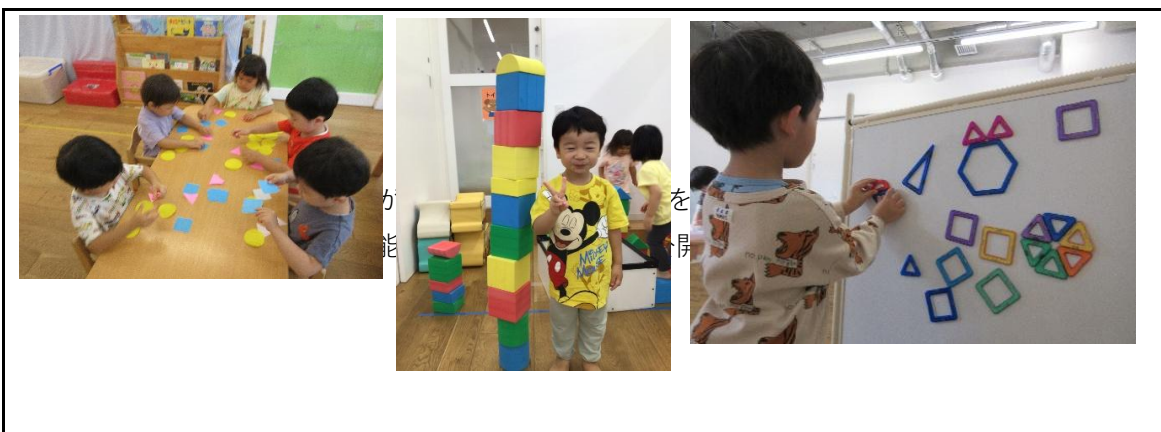
身近な丸・三角・四角ってどんな物？

二人一組になる。

丸・三角・四角のカードと照らし合わせながら園内にある物を4持ち寄る。様々なものから形が単体であるものや合体してあるものが存在していることに気づく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

図形探しゲームに幼児クラスも興味を持ち「やってみたい」と意欲を持つ。合同活動では様々な形を見つけると「あった」「これは〇〇の形だね」とペア同士で会話が弾んでいた。円柱を見つけたグループでは下から見ると丸になっていることに気づき、「なんで？」と疑問を保育者に問う姿があった。保育者は疑問からさらに考察し子どもたちならではの答えが導きだせるよう「似ている図形はあるかな」と伝えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

保育者が気づかない部分にも着目し、子どもたちの視野の広さに気づいた。異年齢児同士がペアになって活動することで着目する観点の違いに大きな差があることがわかった。始めは丸・三角・四角のみでの活動から最終的には様々な図形を用意しておくことで頭の中で連想しながら自由に様々な物を作り上げる力が身についたように感じる。

異年齢児が共に遊びやすい環境を整えたことで、子ども同士が相談しながら一つの物を協力して作り上げたり、他児のを真似て形を作ったりと遊びの幅が広がっていた。